

JENESYS2016 ラオス高校生派遣プログラムの記録

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラムの一環として、日本の高校生および引率者計 22 名がラオスへ派遣され、日本の経済、産学、歴史、自然、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2 月 13 日から 2 月 22 日までの現地 8 泊 9 日の日程でプログラムを実施しました。JICA 事務所・JOCV 隊員活動サイト、現地で活動する NPO への訪問を通して、日本の対ラオス支援について学んだほか、昨年 9 月に日本語の授業が始まったばかりの高校 2 校に訪問し、日本・鳥取の魅力についてプレゼン・パフォーマンスを実施しました。また、ホームビジットやラオスの JENESYS 同窓生との交流を通して、ラオスの魅力や日本との違いについて気づきを深めました。プログラムを通して多くの刺激を受けた参加者は、各々の気づきや体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前報告会では、派遣地での気づきと経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）を発表しました。

【参加校・人数】

鳥取敬愛高等学校 22 名

【訪問国】

ラオス

2. 日程

- 2 月 13 日（月） 【オリエンテーション】
- 2 月 14 日（火） 成田空港より出発 — ビエンチャン着
- 2 月 15 日（水） 【表敬訪問】 在ラオス日本国大使館
【表敬訪問】 青年同盟（Lao Youth Union）
【視察】 JICA JOCV（青年海外協力隊）活動
【市内視察】 メコン川沿い散歩
- 2 月 16 日（木） 【学校交流】 Phiawath High School
【視察・訪問】 JICA ラオス事務所
- 2 月 17 日（金） 【学校交流】 Nongbone High School
【市内視察】 【商業施設視察】 ITECC
- 2 月 18 日（土） 【ホームビジット】
【市内視察】 タートルアン
- 2 月 19 日（日） 【視察・訪問】 Phutawen Farm
【交流会】 JENESYS 同窓会
- 2 月 20 日（月） 【視察・訪問】 アジアの障害者活動を支援する会（ADDP）
【視察】 友好橋、ブッダパーク
【ワークショップ】
- 2 月 21 日（火） 【報告会】
【市内視察】 ワット・シーサケット、パトゥーサイ
ビエンチャン発
- 2 月 22 日（水） 成田空港到着

3. プログラム記録写真

	
<p>2/15【表敬訪問】青年同盟 【Courtesy Call】Lao Youth Union</p>	<p>2/16【視察・訪問】JICA ラオス事務所 【Observation】JICA Laos Office</p>
	
<p>2/17【学校交流】Nongbone 高校 【School Exchange】Nongbone High School</p>	<p>2/18【ホームビジット】 バーシーセレモニーを体験 【Home Visit Program】</p>
	
<p>2/19【視察・訪問】Phutawen Farm 【Observation】Phutawen Farm</p>	<p>2/21【報告会】 【Reporting Session】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 鳥取敬愛高等学校 1年

特に印象に残ったことは、現地の人々との交流で、皆すごくフレンドリーで人柄もよく、ラオスのことがとても好きになりました。今後は内気な性格を直すことに努め、より多くの人との交流を持ちたいと思います。

最初は日本との気温の差や緊張で憂鬱な気分するときもあったけど、実際に現地の人々と触れ合い、現地の文化や生活を体験してラオスに深い関心を抱きました。他にもプログラム中の市内視察や各所訪問を通してラオスの魅力をさらに知るなどとてもいい経験をする事ができたと思います。

今はまだ具体的な将来の夢は決まっていますが、できれば福祉関係に就きたいと思っているので今回訪問した ADDP にすごく興味を持ちました。今まで日本国内しか向けられなかった視野が海外へと広まりました。

◆ 鳥取敬愛高等学校 2年

訪問前は貧しい国だから明るい人は少ないのかな、と勝手に思っていました。しかし実際に訪れてみると、とても明るく私たちをむかえてくれました。ラオスの伝統的な服や建造物、儀式、食べ物など多くのことを教えてくれました。

また、国立図書館で日本のような図書館を目指しているというような話も聞きました。日本は医療面、不発弾除去、障がい者への支援、道路やバス、細かいことから大きなことまでラオスを支援しています。国を超えた支援により助かる国や人が多くいることに驚きました。そして同時に、そういった活動に少しでも関わりたいと思いました。

ラオスでは妊産婦や新生児の死亡率が高く、環境も整っていません。私はもともと助産師になるのが夢だったので、日本だけにとどまらず世界の人を助けられるような助産師になり、活躍していきたいです。

◆ 鳥取敬愛高等学校 1年

初めはラオスについて全く知らない状態で行きました。まず驚いたことは、空港がとてもきれいだったことです。空港は日本の支援で建てられたことを知り、日本とラオスの関係がわかりました。ラオスの高校生、大人もみんな温厚な人ばかりでラオスを出発することがとても嫌です、Phiawat 高校の人と友達になり正直別れるのがつらいです。でもその友達のおかげでラオスにあるお寺や文化、習慣を知ることができ、とても感謝しています。今後は交流で上手いかなかった英語での会話を向上していきたいと思います。

JICA の方のお話を聞き、将来青年海外協力隊に参加したい意欲がより強まりました。ラオスに行ったことで、ラオスの魅力はもちろん日本の魅力を改めて知ることができました。今回のラオス派遣プログラムに参加させていただき、感謝しています。すごく深い学習にもなり、自分にも自信がつくことができました。日本に帰国してからは、ラオス、日本について発信していきたいと思います。

5. 受入れ側の感想

◆ Phiawath 高校（16歳）

感激したことは、日本の学生が友好的で、礼儀正しいという事です。このプログラムに参加することができてよかったです。日本の学生と色々なことをすることができました。一緒に食事して、ラオスの伝統舞踊であるラムヴォンという、男女がペアになり輪になって踊る踊りを一緒に踊って、本当に楽しいひと時でした。もしこのような機会があれば、またぜひ参加したいと思っています。



◆ Phiawath 高校 (16 歳)

今回の交流では感激しました。いろいろな出し物を見ていて、心がドキドキで、楽しかったです。日本の伝統文化を教えてくれて楽しかったし、日本の歌を歌ってくれたこともよかったです。鳥取のこと、日本のことを紹介してくれたプレゼンテーションで色々なことを知ることが出来ました。日本の授業、授業の科目、日本の地理、これを見てしていると本当に日本に行ってみたくなりました。日本の方に来ていただいて本当に良かったです。温かい和やかな雰囲気、可愛くて、またこのような交流の機会があればいいと思っています。

6. 参加者の対外発信

 <p>Instagram post from matsuo_kazuki0106 showing photos of the program and a reflection in Japanese and English.</p>	 <p>Facebook post from 坂田悠呂さん showing photos of a home visit and a reflection in Japanese.</p>
<p>プログラム終了後の写真と感想を Instagram に投稿</p>	<p>ホームビジット時の写真と感想を Facebook に投稿</p>
<p>Reflection of all the program</p>	<p>Home Visit Experience</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 <p>Reporting Meeting in our high school</p>	 <p>「日本の伝統文化の再認識」 Rediscover Japanese Tradition and Culture</p>
<p>オープンキャンパス等、学外からも来校者のある機会に報告会・展示を実施する</p>	<p>学校全体で終日浴衣を着る日を設定し、日本の伝統文化の良さを見直す機会とする</p>
<p>Reporting Meeting in their high school (Open Campus Event)</p>	<p>Yukata Experience Day in Keiai High school: the Opportunity to understand the attractive Japanese Tradition and Culture</p>